

多言語国家ベルギー

日本大学理工学部一般教育英語系列
准教授 Ruth Vanbaelen

ベルギーが 1830 年に独立してから国の歴史はまだ浅いです。しかし、四国程度の面積しかないにもかかわらず、現在のヨーロッパの形成に大きな役割を担ってきました。ベルギーがなぜ公用語を 3 つ使用するようになったのか歴史的観点から説明し、文化や一般庶民の生活を紹介します。そして、日本との 150 年にわたる関係について触れます。

歴史的背景とそれに伴う言語選択

ベルギーの地理的位置を確認すると、時計回りにオランダ・ドイツ・ルクセンブルグ・フランス・イギリスに囲まれていることがわかります。オランダ語・フランス語・ドイツ語を公用語として使うことも納得できるのですが、独立当初にはそうではなく、フランス語のみが公用語として認められていました。その背景に占領の長い歴史があります。歴史をさかのぼると、ベルギーは順番にローマ・ブルゴーニュ（仏）・スペイン・フランス・オランダに占領されてきました。支配者が変わっても、なかなか変わらなかったのが使用言語です。15 世紀ごろから、行政はフランス語を、一般庶民は住んでいる地域の言語を使用していました。その時点から、行政や教育での使用言語と一般庶民の普段の生活の使用言語の間にギャップが生じた地域がありました。具体例として現在のアントワープ地方が挙げられます。行政と教育はフランス語で行われましたが、その一方、一般庶民はオランダ語（標準語ではなくさまざまな方言）を使っていました。言語のギャップから、社会での権威や経済などのギャップが生じる状態でした。これらの状況への反発や改善を求める運動、現在のベルギー社会の状況と教育における新しい仕組みなどについて説明します。

文化・生活

ベルギーは政教分離が原則ですが、住民の多くはカトリックで、宗教が長い間生活の一部でした。日本でも年間行事となっているクリスマスの他に人々が大事にしている祝い事がいくつあって、そのうち公現祭、カーニバルや復活祭が挙げられます。日本で広く知られているハロウィーンやバレンタインがあまり生活に根付いていないものもあれば、日本で逆に知られていない Sinterklaas（シンテルクラス）や Verloren Maandag（失われた月曜日）のような行事もあります。母の日を年に 2 回も祝う地域もあって、このような行事を日本と比較しながら紹介します。

祝賀や祭り、そして毎日の生活に欠かせないのはもちろん食事です。プロテスタント教派の影響で食事が素朴といわれるオランダと美食で知られているフランスの間に位置しているのはベルギーの食卓です。ムール貝や（生）魚の魚介類からジビエ肉、甘味などどなたにでも口に合うものが見つかるに違いありません。

略 歴

Ruth Vanbaelen (ルート・ヴァンバーレン)

<学歴>

平成 6 年 9 月 ベルギー、ルーヴァン・カトリック大学文学部日文学科 卒業

平成 15 年 11 月 筑波大学大学院文芸・言語研究科博士課程言語学専攻 修了

<学位>

平成 15 年 11 月 博士（言語学）（筑波大学）

<職歴>

平成 16 年 4 月～平成 16 年 9 月 筑波大学・文芸言語学系 外国人研究者

平成 16 年 10 月～平成 18 年 9 月 筑波大学大学院 日本学術振興会 外国人特別研究員

平成 18 年 10 月～平成 20 年 3 月 筑波大学大学院 外国人受託研究員

平成 19 年 9 月～平成 20 年 3 月 筑波大学外国語センター 非常勤講師(英語)

平成 20 年 4 月～平成 26 年 3 月 日本大学助教、理工学部配属

平成 26 年 4 月～現在 日本大学准教授、理工学部配属

<主な業績>

- ・「オランダ語の新バリエーション：オランダ語中間言語の実態」（単著）『筑波応用言語学研究』13号，29-42頁，平成18年12月
- ・「日本語学習者を戸惑わせるネイティブ・スピーカー発話：フォリナー・トークによって生じる誤解」（単著）『外国語教育論集』（筑波大学外国語センター）30号，159-169頁，平成20年3月
- ・“The redundant use of the past participles “geworden” (become) and “geweest” (been) in newspaper articles.”（単著）『エネルギー』33号，81-98頁，平成20年5月
- ・“Common English Grammar Errors Made by CST Freshmen in Writing Assignments”（単著）日本大学理工学部『一般教育教室彙報』No85，1-12頁，平成21年3月
- ・“Good Practices to Ensure Sustainable Education for International Students’ Success”（共著），IEEE-IPCC 2011 Proceedings，計12頁，平成23年10月
- ・“Plagiarism Awareness”（共著）IEEE-IPCC 2013 Proceedings、計8頁、平成25年7月
- ・“Lifelong Learning in a Fourth World Setting”（共著）IEEE-IPCC 2014 Proceedings，計9頁，平成26年10月
- ・“Development of a Graduate School EAP Course for Engineers（共著）IEEE-ProComm 2015 Proceedings，計7頁，平成27年7月

田山花袋の文学 ～柳田国男とともに～

日本大学理工学部一般教育人文系列
准教授 岸 規子

田山花袋は自然主義の作家として知られています。実際、彼の家族や親類、友人たちをモデルとした作品を数多く執筆しています。では、花袋の友人たちの中で、彼の作品に一番登場しているのは誰なのでしょう。初期から晩年に至るまで、繰り返し主人公のモデルとしたのは、柳田国男なのです。そして柳田自身も、その文章の中で繰り返し花袋について言及しています。つまり花袋にとっても、また柳田にとっても、相手は問題人物であった訳です。そして花袋は繰り返し柳田を描きながらも、書き尽したという感じを持つことが出来なかったといえます。今回は柳田との交友を通し、花袋がどのような作品を生み出していったのか、その一端を明らかにしていきます。柳田をモデルとしたおびただしい作品の中から、『野の花』『ネギ一束』『山の巡査達』『白い鳥』を取り上げてみたいと思います。

まず、『野の花』からみていくことにしましょう。この作品は花袋の初期を代表する小説です。主人公の名は宮崎定雄。23歳の大学生という設定がなされ、「青年の夢」が「運命」によって挫折していく過程を描くという枠組が、小説の冒頭で示されています。この小説は柳田国男の悲恋の物語が下敷きにされています。花袋は柳田国男から初恋の物語をかなり詳しく聞かされていたようで、小説の設定はかなり事実に近いものであったといわれています。また、若き日の柳田国男（当時は松岡国男）が新体詩人として評価されていたことも併せて想起しておくべきでしょう。彼の新体詩は殆どが恋愛詩で、『野の花』に書かれた恋愛がその背景にあったことは疑いがないのです。花袋は友人として、柳田の語る悲恋の物語を同情と共感を持って聞いたと考えられます。『野の花』で主人公の一人称の語りが用意されたのも、おそらく柳田から物語を聞かされた痕跡を留めているからではないでしょうか。柳田が優れたストーリーテラーであったことを考えれば、この仮説も根拠のない想像とはいえないでしょう。そして悲恋物語が小説に再構成されていく時、当然花袋と柳田との間に密な対話・コミュニケーションが行われたことが考えられます。『野の花』を読むと、主人公は彼の理想とする文学に呪縛され、その恋愛観も現実から遊離したものとなっており、決して理想的な人物とはいえません。が、作者である花袋自身は、自ら為し得なかった理想を実践する人物として、定雄を描いているようです。花袋は定雄を批判的にとらえようとしたのではなく、あり得たかもしれないもう一人の自分を見出そうとしたと考えられます。但し、『野の花』の後日談を語った『春潮』『夜の川舟』では、花袋は打算に満ちた主人公の在り様を批判的に描いています。主人公の変容は、花袋と柳田との関係性をみていく上で、見逃すことのできないものとなっています。

それでは次に、「ネギ一束」をみていくことにしましょう。この短編は明治40年6月に発表された作品で、柳田国男から素材の提供を受けています。柳田の回想によれば、彼は花袋に複数の物語を提供しており、その中から花袋が選び作品化したのがこの「ネギ一束」であ

ったということです。柳田は他にも子殺しの事件を2つほど語り、花袋に小説化するよう促したのですが、花袋の方で受け付けなかったという事実があります。柳田はある時期まで、自ら進んで小説の種を花袋に提供し、花袋がその話題を作品化するという役割を担っていました。柳田は自分の理想とする文学を花袋なら実現してくれるはずだ、と期待していたのです。しかし花袋は柳田の目論見を理解しつつも、自らの資質に忠実であろうとし、彼なりの方法で小説化していったといえないでしょうか。彼らが明治の末から大正5年頃まで疎遠であったというのも、互いの思惑の違いや感情の齟齬の結果といえそうです。

最後に大正7年に発表された「山の巡査達」『白い鳥』を取り上げてみたいと思います。この2作品は花袋と柳田が友情を復活させた後に発表された作品です。疎遠となっていた彼らが、なぜ再び親密な交際を始めたのか、詳しいことはわかっていません。柳田が再び花袋に小説の素材を提供している事実を確認しておけば十分でしょう。「山の巡査達」には柳田をモデルとする人物が登場しています。A長官として書かれる彼は、周囲を翻弄する迷惑な人物として書かれ、彼の文学趣味がその行動の動機であるかのように描かれています。柳田が彼の台湾への旅を花袋に詳細に語っていたのは間違いないでしょう。語れば間違いなく小説の種にされる、そして自分が損な役回りでも小説に登場することになる。柳田は過去の経験から当然そのことは知っていたはずで、それを承知で花袋に旅での見聞を伝えていた訳ですから、彼らの結び付きの強さに2人とも余程の自信があったといえるのかもしれませんが。

また、ほぼ同じ時期に書かれた『白い鳥』は不思議な作品です。詩人であった頃の柳田が登場する一方で、「蒲団」執筆後の花袋が登場するという、時間軸の曖昧な作品なのです。柳田は松浦の名で登場しますが、「野辺の往来」（詩集『抒情詩』では「野辺のゆきゝ」）の作者として、かなりあからさまな形で、松岡国男であった頃の柳田が読者に想起されるようになっていきます。ヒロインの伯父は「蒲団」の作者であることが書かれ、これもモデルが誰であるのかがはっきり分かるように仕組まれています。『白い鳥』は女性読者に向けて書かれた作品ですが、先行するテキストを絢交ぜにしたような、設定と構成を持っている小説です。そしてこの作品では、柳田自身が封印してしまった詩人としての姿が書かれています。柳田の過去を甦らせた花袋の意図はどこにあったのか。柳田に憧れ、嫉妬と羨望を隠すことのなかった花袋ではありましたが、柳田の選択の全てを肯定していた訳ではないことは、花袋の歩みをみれば明らかです。恋と文学と、そして人生を語った時間へと遡行することで、2人の関係性を根底から問い直そうという意図があったのかもしれませんが。以後、2人の友情は花袋の死まで続いていくこととなります。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

略 歴

岸 規子（きし のりこ）

<学歴>

昭和 60 年 3 月 東京女子大学文理学部日本文学科卒業

昭和 62 年 3 月 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科修士課程日本文学専攻修了

平成 4 年 3 月 お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士課程比較文化学専攻
単位取得満期退学

<学位>

昭和 62 年 3 月 文学修士

<職歴>

平成 21 年 4 月～現在 日本大学理工学部一般教育准教授

<著書>

- ・「田山花袋作品研究」双文社出版，平成 15 年 10 月 10 日
- ・「未完の物語—田山花袋作品研究二」双文社出版，平成 26 年 12 月 11 日

<学会活動>

- ・日本近代文学会
 - ・日本文学協会
 - ・解釈学会
 - ・花袋研究学会
 - ・島崎藤村学会
 - ・芸術至上主義文芸学会
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

からだの理と転倒予防 ～高齢者の転倒事故を予防する～

日本大学理工学部一般教育体育系列
准教授 高橋 亮輔

誰しもが高齢になっても健康で長生きをしたいという願いを持っていることと思います。我が国の65歳以上の人口は、平成27年現在3186万人で全人口の25%となりました。人口、割合ともに過去最高を記録しており、国民の4人に1人が65歳以上の高齢者ということになります。

加齢とともに残念ながら少しずつ身体の機能も低下していくことになります。その中でもよく実感するものとして足腰の機能低下が挙げられます。足腰が弱ってくると、自分の体重を支えることができなくなり、結果として転倒をするリスクが高まってきます。転倒は英語ではFallという単語で表されますが、日本では転倒、転落、墜落の3つに分類・定義がされています。①転倒は同一平面上で転ぶこと、②転落は身体の一部が地面に接した状態で転がり落ちること、③墜落は高低差のある所から直接地面に落下することとなります。転倒による弊害としては骨折が挙げられます。骨折をしやすい場所として、手首（前方転倒）、脊椎（後方転倒による圧迫骨折）、大腿骨頸部（側方転倒）が代表的なものとして挙げられます。転倒による骨折は、平成25年の国民生活基礎調査の概要で要支援者の第3位になっています。

では、どのような人が転倒をしやすいのでしょうか。①体型・体格では、BMIの値が大きい、ウエストヒップ比の値が高い、②体力・運動能力では、歩く、またぐ、登って降りる動作やバランス能力が低下をしている、③HDLコレステロールの値が低い、動脈硬化指数が高い、中性脂肪、総コレステロール値が高いなどが代表的なものとして挙げられます。

転倒を予防するための方法として運動が挙げられます。転倒予防と運動の関連について国内外で様々な研究がされており、運動が転倒に予防に効果があるとの科学的根拠が得られています。しかし、運動の内容として筋力トレーニングだけでは不十分であるため、①立位で自分の体重が十分にかかる動作、②水平方向へのできるだけ素早い移動動作、③垂直方向への振幅の大きい動作が含まれていることが重要となります。運動を行いながら筋力、バランス能力の向上とともに瞬時の判断能力を養うことが大切です。

運動と聞くと血と汗と涙や激しさをイメージされる方が意外と多いようですが、決してそのようなことはありません。いつでも、どこでも、ひとりでも、もちろん友人とも気軽にできる内容で全く問題ありません。ウォーキングなどは取り組みやすい代表的な運動のひとつです。足腰にあまり自信のない人はプールでのウォーキングを行うと良いでしょう。浮力の影響で関節への負担が軽減できます。地域の介護予防事業などでは、集団で運動をする際、音楽に合わせたリズム運動や太極拳、球技としてショートテニスなども行われています。これらの運動により、前後左右に動き自分の身体をしっかりと支える能力、バランスを崩しそうになった際のとっさの一步が出せるようになるなどの能力が楽しみながら身につくとい

